



今日のトピック 世界の「投信マネー」(2019年11月)

株式ファンドが昨年1月以来の大幅流入超

流入超過額は2カ月連続で1,000億ドル超

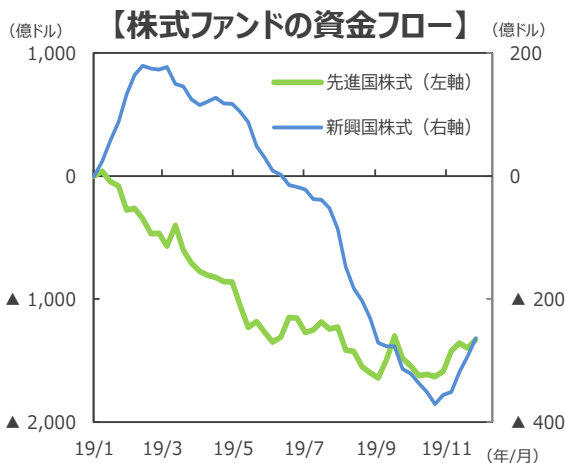
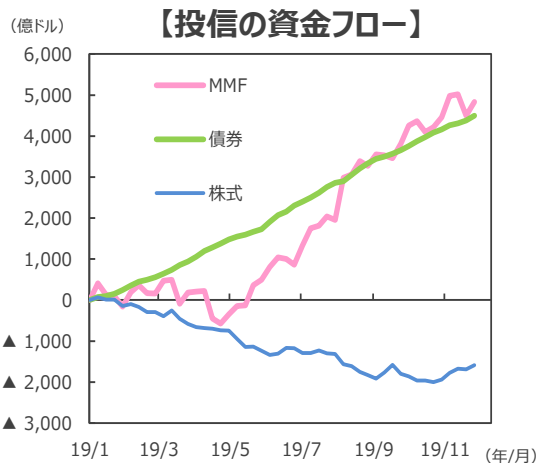
- 11月の投信マネーは全体で+1,036億ドル(前月+1,028億ドル)と2カ月連続の1,000億ドル超でした。「MMF」が+372億ドル(同+643億ドル)、「債券」が+339億ドル(同+503億ドル)と流入超過が続いています。
- 債券ファンドは、「先進国」が+323億ドル(同+492億ドル)と11カ月連続の流入超です。「北米」が+255億ドル(同+331億ドル)、「グローバル」が+95億ドル(同+128億ドル)でした。「新興国」は+16億ドル(同+11億ドル)でした。

株式ファンドが昨年1月以来の大幅流入超

- 11月の特徴は「株式」に大量の資金が流入したことです。「株式」は+350億ドル(同▲144億ドル)と昨年1月以来の大幅な流入超となりました。「先進国」が+257億ドル(同▲102億ドル)、「新興国」が+92億ドル(同▲42億ドル)でした。
- 「先進国」は、世界全体の株式に投資する「グローバル」が+135億ドル(同+22億ドル)、「北米」が+106億ドル(同▲107億ドル)でした。「アジア(日本を含む)」は▲12億ドル(同+15億ドル)でした。

「新興国」株式ファンドへの流入超過基調が続くかに注目

- 株式ファンドの「新興国」は資金流入へと転換しました。中心は新興国全体に投資する「GEM」が+61億ドル(同▲18億ドル)、「EMアジア」が+25億ドル(同▲17億ドル)です。さらに「ラテンアメリカ」が+7億ドル(同+4億ドル)と資金流入が拡大し、「EMEA」は▲1億ドル(同▲11億ドル)と資金流出が縮小する方向にあります。
- 今後の焦点は引き続き米中交渉です。トランプ米大統領は中国との貿易合意に至るのが1年後でも構わないとの姿勢を示すなど、フェーズ1の合意に対する懸念が広がりつつあります。株式ファンドへの流入が短期的に縮小する可能性が否めませんが、世界経済が明るさを増す基調に変化がなければ、新興国の成長に対する期待は持続し、「新興国」株式ファンドへ資金が流入すると考えられます。



(注1) EPFRグローバル：米国に本社を置く金融商品の調査会社。2019年10月末現在36.6兆ドル規模の世界のファンドの資金フローデータを持つ。データは2019年1月2日～2019年11月27日。週次ベース。2019年1月からの累計。

(注2) 「GEM」はGlobal Emerging Markets(世界の新興国市場全体に投資するファンドの総称)。「EMアジア」は、新興アジア全体に投資するファンドのほか、中国、インド、韓国、台湾、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム、パキスタン、ベンラデシュに投資するファンド。「EMEA」はEurope, the Middle East and Africanに投資するファンドの総称。

(出所) EPFRグローバルのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここも
チェック!

2019年11月27日 インド株式市場は堅調推移(2019年11月後半)
2019年11月26日 2019年12月の注目イベント

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。